

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3871000414
法人名	有限会社 土香里
事業所名	グループホーム・土香里
所在地	伊予市大平字片山甲 2 2 5 - 1
自己評価作成日	平成26年8月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年8月21日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>職員の笑顔がすべての笑顔の源になると信じ、職員全員に、ここでいつまでも働きたいと思ってもらえるように、楽しさを追いかけています。</p>
-------------------------------------------------------------------------

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>法人代表者は、現場でケアに携わり、職員と話す機会も多く、職員個々のアイデアや自由な発想を受け入れ、先ずはやってみることに努めておられる。認知症ケア専門士の資格を持つ法人代表者と管理者は、職員の質向上を目指して、毎月のカンファレンス時には、先に勉強会を行うことに取り組んでおられる。</p> <p>入居時、ご家族には看取りを支援することもできることを伝え、利用者の状態変化時には、その都度、ご家族の揺れ動く気持ちに寄り添って支援されている。職員は、利用者が最期まで「しんどくなく、寂しくなく、痛み無く過ごせるよう」な支援に努めておられ、お好きだった音楽を流したり、手を握って子守唄を歌ったり、テレビをつけて眠る習慣の方にはテレビをつける等、配慮して支援されている。ご家族の中には、感謝の気持ちから、事業所の庭に金、銀のモクセイを植え、命日には来訪してお世話する方もある。「自宅で看取りたい」と言うご家族の希望で、最後までご自宅の庭を見ながら暮らせるよう支援されたケースもある。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム・土香里

(ユニット名) 木の花

記入者(管理者)

氏名 井上 真喜子

評価完了日 H26 年 8 月 10 日

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 利用者、一人一人の笑心(えがお)とは何かを本人、家族の立場から考え支援できるように努力しているが、まだ充分とは言えず今後も努力していきたい課題である。	
			(外部評価) 事業所理念、「笑心(えがお)の探求 全ての人があわせになるため、私たちは居り、ここは在る。」に基づき、職員で話し合って年間及び月目標を設定し、理念の実践に取り組まれている。毎月の会議の冒頭で、書記担当職員が理念を復唱するようになっている。玄関には、法人代表者の筆による理念と職員一人ひとりが書いた今年の抱負が掲げられており、居間には、今年及び8月の目標が掲示されていた。運営推進会議時には、理念や目標を伝えて、ご家族や地域の方々への周知に努めておられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 町内会にも参加しており、一般世帯と同じようなかわりを持たせていただいている。地域の行事には積極的に参加するように心がけており、またホームの行事にも参加していただけるように案内している。近隣の方にはお野菜をいただいたり利用者の話し相手になっていただいたり、良いご近所付き合いをさせていただいている。	
			(外部評価) 日常的な近所つきあいを大切にし、地域との関係作りに積極的に取り組まれている。法人代表者は、地区の常会に毎月出席し、世話役等も引き受けて地区の様々な活動に尽力されている。野菜をおすそ分けしてくれる近所でひとり暮らしする高齢者の方は、2日に1度は事業所で利用者と夕食をともにされ、利用者も心待ちにされているようだ。地域の小学校から定期的に児童が来られており、利用者も童心に戻り、楽しいふれ合いの時間となっている。事業所で行う、ほたる祭りやそうめん流し、餅つき等も、利用者のご家族、近隣の方達の交流の場となるよう取り組まれている。又、地域の折々の祭りや公民館の催し物、運動会等には、利用者も参加できるように支援されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議などで機会あるたび、情報などを発信している。AEDを設置していることで役に立てること、方法はないかと話し合い模索している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議で出された意見等については、次回の議題に取り上げるなどの対応を行っている。</p> <p>(外部評価) 会議には、ご家族や地域の方、市の担当者、他グループホーム職員、評価機関等、毎回15名～20名程度の参加があり、公民館を借りて開催されている。18時半からの会議でもあり、お弁当を食べたり、コーヒータイムを設けながら、会議をすすめており、パワーポイントを使用し、事業所の取り組みや利用者の日頃の様子、行事時の様子等を具体的に報告して、意見交換されている。最後には、毎回、参加者で童謡の「ふるさと」を歌っている。地域の方の要望から、講師を招いて「尿漏れ予防の体操教室」を開いた際には、地域の方が15名程参加し好評だったようだ。ご家族には、全員へ手紙で出席をお願いし、会議内容についても報告されている。以前は、10名に及ぶご家族の参加があったが、ここ数年、参加率がやや減少傾向にあるため、さらに「気軽に足を運んでもらえるよう、会議内容等についても工夫したい」と考えておられた。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議には、伊予市の担当者に参加していただいているが、さまざまな取組みを今後更に行い、より良き協力関係を構築していきたい。</p> <p>(外部評価) 数年前から、市内8つのグループホームの管理者が自主的に毎月「交流会」を行っており、今回は、市社協の職員にも参加してもらうようになっている。管理者は、今後は、市にも働きかけて協力関係を築き、「研修会の開催」等につなげ、地域の認知症ケアの向上に取り組みたいと考えておられた。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束廃止委員会を設け、内部で勉強会を実施している。</p> <p>(外部評価) 玄関は開放されており、利用者が自由に入出入りしたり、近所の方も気軽に入って来られるようだ。ユニットの入り口には、ドアベルを取り付けており、開閉時、チリンチリンと鳴るようになっている。利用者のご家族から、ベッドからの転落防止のためベッドを壁に付けて、柵を付けてほしいと強い要望があり、事業所内の「身体拘束委員会」で話し合っって柵を取り付け様子を見られたが、利用者の状態から必要無いと判断し、現在は、外して支援されている。運営推進会議時には、身体拘束委員会から取り組みについて報告をされている。</p>	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  勉強会も行っているが、各職員がストレスを溜めないような取り組みによって、防止よりも予防を心がけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  成年後見制度については、実際に相談にのり、支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  十分時間をとり、本人及び家族が納得いただけるよう説明を行っているが、できる限り契約前に来ていただいて、実際に見ていただくようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  運営推進会議で意見交換会の時間を設け、いろいろな意見が出され、反映するようにしているが、意見はだいたい決まった方からになってしまっている。	
			(外部評価)  ご家族の来訪時には、利用者の様子を伝えて意見や要望等をうかがうよう努めておられる。又、毎月、手紙で利用者の暮らしぶりや行事案内、受診の予定等を報告し、法人代表者と管理者のコメントも添えて送付されている。又、2ヶ月毎に発行している「とかり通信」では、利用者の笑顔の写真を満載し、事業所の取り組みや行事風景等を伝えており、ご家族の中には、「こんな楽しそうな表情をして」と喜ばれ、大切にファイルしている方もあるようだ。家族会の設立に関して、ご家族の意向をうかがったが、「今は必要ないのでは」との意見が多かったようだ。以前は、玄関に職員の顔写真と名前を掲示していたが、新たに入居した利用者のご家族のためにも、再度、掲示したいと管理者は話しておられた。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 運営に関する意見を話す場は無く、個人的にあったとしても、反映させてくれているとは思えない。	法人代表者と管理者は、自己評価に取り組む中で、「職員の厳しい意見もみられ、課題もみつかった」、「初心に戻り、新しい取り組みに向けて職員全員で話し合っ、一つひとつ目標を達成していきたい」、「職員の忌憚の無い意見を出し合う機会をさらに設けたり、職員同士の思い等を交換する『プロダクト』を復活させたりして、より楽しく働きやすい職場づくりに向けて歩みをすすめていきたい」と話しておられた。法人代表者が目指す「日本一幸せなスタッフが居る、日本一幸せなグループホーム」づくりに向けて、さらなる取り組みをすすめていかれてほしい。
			(外部評価) 法人代表者は、現場でケアに携わり、職員と話す機会も多く、職員個々のアイデアや自由な発想を受け入れ、先ずはやってみることに努めておられる。認知症ケア専門士の資格を持つ法人代表者と管理者は、職員の質向上を目指して、毎月のカンファレンス時には、先に勉強会を行うことに取り組んでおられる。事業所には、日帰り旅行、八十八箇所巡り、カラオケ等、職員のクラブ活動があり、補助金も支給しており、職員は「仕事を離れた付き合いが、より良いチームワークづくりにつながっている」と話しておられた。今回の自己評価は、評価項目を分担して全職員で取り組み、日頃のケアを振り返る機会とされた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 良くも悪くも、全部が一定であり、職員が向上心を持つことは困難	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 機会は与え、そのための時間も提供しているが、個人に任せすぎであり、育てることはなっていない。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 代表者、管理者等はできていると思うが、職員全体にまで浸透していない。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ケアマネージャーと担当職員が主となって、本人、家族と話し合い、計画も立てることができている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 担当職員を決め、少しでも力になりたい思いで、要望、不安等の言葉や気持ちに気付く努力をしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族の要望をケアプランに取り入れてはいるが、他サービスの利用は検討していない。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 信頼関係作りを大切にしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 病院受診時、職員が付き添うも、家族にも同行をお願いし、本人が家族と過ごす時間を少しでも持てるようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人が過ごしていた自宅ヘッドライブに行ったり、地元行事に参加したりしている。	
			(外部評価) 誕生会のご家族とともにお祝いできるよう、ご家族と日時を相談して決めておらる。調査訪問時には、80歳を超える利用者の方の誕生会が行われており、ご家族も一緒にみんな笑顔で祝福している様子がみられた。お寺参りのお好きな利用者を支援したり、ご家族の入院先にお見舞いに行けるような支援もされている。受診の際には、ご家族にも付き添いをお願いして、行き帰りや待ち時間に、利用者をご家族と過ごせるよう配慮されている。調査訪問時には、法人代表者が受診に同行して、帰りに利用者のご自宅の前を通り、利用者のお好きな大福とコーヒーを買って食べて帰られたようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 誕生会等、利用者同士でお祝いをしたり、ユニット間で遊びに行き来し、交流を持っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居後も足を運んでいただける家族が居られるが、その後の相談等は行えていない。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 個別の思いや要望の把握に努めているが、今以上にコミュニケーションを図り、少しでも思いや希望が把握できるようにしていきたい。	
			(外部評価) センター方式を参考に作成した、事業所独自のアセスメントシートにて、利用者の暮らしの意向や思いの把握に努めておられる。職員は「もっと時間をかけて、ゆっくりと利用者の気持ちを引き出せるよう、支援していきたい」と話しておられた。	今後も、利用者一人ひとりの思いに向き合い、たくさんの可能性や持っている力等を探っていかれてほしい。又、「気づきシート」等もさらに活用して、得た情報を蓄積できるよう取り組みに工夫し、最期までその人らしい暮らしが続けられるような支援につなげていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居されてから、本人や家族との会話の中で、新たに知ることもあるため、更に把握できるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 本人の思いを何より大切にしている。今後の状況も注意、観察し、把握できるよう努めていきたい。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>毎月のカンファレンスに於いて、事前に本人、家族へ相談をしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護計画は、利用者やご家族の意向等を取り入れ、利用者個々の担当者が立案したことをもとにして計画作成担当者が作成しており、「利用者が楽しく前向きになれるような具体的なプラン」づくりに努めておられる。月に一度、サービス担当者会議にてモニタリングして、3ヶ月毎の計画の見直しにつなげておられる。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>カンファレンスでは、個別に積極的な意見が出るが、更に観察した上での意見であり、プランが必要。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>独自の支援、サービスを探し、目指しているが、まだまだニーズに気付いていない気がする。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>地域資源はある程度把握しているが、十分活用しているとは言えない。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人や家族の希望する医師への受診を行っている。受診が難しい方は、往診を受ける体制をとっている。	
			(外部評価) 入居前からのかかりつけ医を受診できるよう支援しており、受診時は、基本にご家族と職員が同行するようになっている。受診が困難になり、往診が必要になった場合は、ご家族と相談して往診可能な医師へ変更されており、月2回往診してもらっている。訪問歯科を利用できるよう支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 日々の細かな変化や気づきを記録し、職員の看護師と日常的に相談している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入退院前後に、病院と職員の看護師がこまめに連絡を取り合い、関係作りを行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取りのケースも過去数回あり、居室で見送ることが多い。事前に家族と話し合う機会を多くとっているが、実際には本人と終末期の話し合いはできていない。	
			(外部評価) 入居時、ご家族には看取りを支援することもできることを伝え、利用者の状態変化時には、その都度、ご家族の揺れ動く気持ちに寄り添って支援されている。職員は、利用者が最期まで「しんどくなく、寂しくなく、痛み無く過ごせるよう」な支援に努めておられ、お好きだった音楽を流したり、手を握って子守唄を歌ったり、テレビをつけて眠る習慣の方にはテレビをつける等、配慮して支援されている。ご家族の中には、感謝の気持ちから、事業所の庭に金、銀のモクセイを植え、命日には来訪してお世話する方もある。「自宅で看取りたい」と言うご家族の希望で、最後までご自宅の庭を見ながら暮らせるよう支援されたケースもある。これまでの経験から法人代表者は、より良い看取りを支援するためには、ご家族との信頼関係が大切だと感じておられた。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 利用者の急変、事故発生時に備え応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練、通報訓練を行い、災害時に於いて近隣の方に早急要請できるよう協力依頼を行っている。	
			(外部評価) 年2回、消防署の指導のもと、地域の消防団員や近所の方の協力を得て、夜間想定で避難訓練を実施されている。運営推進会議時には、地域の方へ災害時の協力をお願いし、事業所に設置しているAED(自動体外式除細動器)の講習会も実施された。玄関には、いざという時、利用者の見守り等、近所の方々に協力してもらえよう、利用者の写真と名前、連絡先を記入したシートと懐中電灯を入れた袋を用意されている。職員の喫煙場所は、屋外及び換気扇の下と決められている。今後さらに、地震や風水害等に備えた避難訓練にも取り組まれてほしい。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個別の状態や心境に応じて、優しい声かけを心がけている。	
			(外部評価) 職員は、起床時間や食事時間等、利用者一人ひとりのペースを尊重して支援されている。又、手芸や洗濯物たたみ、畑の草取り等、利用者個々に得意なことを続けられるよう支援されている。誕生日には、利用者が希望する品をプレゼントし、希望の出にくい方には、利用者にふさわしい品を職員が選んでプレゼントされている。職員は、「ややもすると、重度の利用者にかかわり過ぎてしまいがちなので、他の方にも等しくかかわっていきたい」と話しておられた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 「しっかり待ってあげること」「選択肢を与えること」にとって本人の自己決定を促すようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 介護度の高い利用者が多いため、全員まんべんなく満足する支援を行うことは難しい。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的な散髪、入浴、爪きりなど、支援はできている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事づくりは難しいが、食べるときは全員一緒。	
			(外部評価) 平日の昼食は、栄養士資格を持つ職員が2階ユニットで、2ユニット分の食事を作り、休日は各ユニットで職員が作るようになっている。誕生日には利用者の好物を手作りし、日頃のメニューにも利用者の希望を採り入れるよう考慮されている。又、利用者も一緒に下ごしらえや食器洗い等ができるよう支援されている。職員も利用者で食卓を囲み、同じ物を食べており、調査訪問時は、職員が「今日のお味は、いかがですか」と聞くと、利用者は「上出来、おいしいよ」と何度も答えておられた。利用者それぞれに、ご自宅から持参した使い慣れたお茶碗やご家族手作りのマグカップ、事業所からの誕生日プレゼントの品等、愛着のある食器を使用されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 職員の栄養士の献立により、栄養バランスのよい食事が摂れている。また、個別に食べやすいようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 介助の必要な方は、口腔ケアが出来ているが、自分で出来る方は出来ていない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			職員は個別の排泄の自立に向け、誘導し支援を行っている。	
			(外部評価)	
			日中は、トイレで排泄できるよう支援されている。入院中は終日オムツに頼っていた利用者が、退院後は職員がトイレ誘導に努め、トイレで排泄できるようになった方もある。夏場の温度上昇に備えて、冷風機を設置しているトイレもあった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			運動の他、ヨーグルト等の飲食物の工夫をしたり、個々に応じた取り組みをしている。	
			(外部評価)	
			時間等決めておらず、入浴剤や音楽も取り入れたりしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			週3回、午前でも午後でも入浴できるよう支援し、毎日入浴したい利用者の希望にも浴って支援されている。1階ユニットには、普通浴槽と椅子のまま湯船で温まることのできる特別浴槽も併設されている。音楽を聴きながら入浴したり、ゆず湯や菖蒲湯も楽しめるよう、工夫して支援されている。	
			(外部評価)	
			入眠、起床の時間はそれぞれ異なるため、食事時間が多少ずれても、その時のリズムを優先している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			(外部評価)	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価)  服用薬による副作用や変化を見逃さないように、意識を持ち業務にあたっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価)  何気ない普段の会話から本人の思いや希望している場所などに行けるよう、意識しながら業務にあたっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価)  週1回の外出では対応できないような、個人の外出に1対1で行っている。また、近所のイベントにも一緒に参加している。	
			(外部評価)  日常的に、事業所周辺を散策したり、近所の神社にお参りしたりできるよう支援されている。毎週、1階ユニットは金曜日、2階ユニットは火曜日に、利用者全員で、双海にドライブに出かけたり、ぶどう狩りを楽しんだり、回転寿司で外食する等、外出できるよう支援されている。又、利用者の希望に沿って、日用品の買い物や石手寺参詣等、個別の外出支援にも取り組まれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)  外出の際には、買い物なども自由に出来るよう支援をおこなっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)  自由に電話できるようなしえんをおこなっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>不快や混乱するようなところは無いが、少し殺風景。</p> <p>(外部評価)</p> <p>事業所の前には桜堤が続く清流が流れ、周囲には水田やみかん畑が広がり、四季折々に満開の桜、乱舞する蛍、たわわに実る稲穂等、利用者は里山の豊かな自然を感じることができる。玄関前の鉢植えには夏の花が咲き、川えびの稚魚が泳ぐ水瓶が置かれていた。玄関扉には、「ようこそ、土香里へ来てくれてありがとう。ゆっくりしてってね」と歓迎のメッセージが貼られ、玄関には音楽が流れ、法人代表者の作品等も並べられていた。居間には、利用者の習字を掲示し、利用者の願い事を書いた笹飾りや風鈴が吊るされており、階段の壁には小学生が書いてくれた絵が飾られていた。居間の畳のスペースでは、利用者が洗濯物をたたむ等されるようだ。居間で飼っているウサギは、利用者の心を和ませてくれている。調査訪問時、利用者はお月見の絵柄の9月のカレンダーづくりに取り掛かっておられた。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>レクへの参加を押し付けず、自由に過ごしてもらおう。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>出来ていると思うが、更に自宅に近い部屋づくりを行う。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室の扉には、法人代表者の手による、利用者が入居した季節に合った草花を描いた名札が掛けられている。利用者それぞれに、使い慣れた鏡台やラジオ、クッション、ぬいぐるみ等を持ち込まれていた。思い出の写真やご本人の手芸作品を飾ったり、お気に入りの歌手のポスターを貼っている居室もある。又、「笑顔でみんなを和ませてくれてありがとう」「いつも職員の片腕になってくれてありがとう」等と書いて、毎年、敬老の日に利用者個々に合わせて職員が贈る感謝状を額に入れて、大切に飾っている居室もみられた。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>目の不自由な方の動線が確保できていないときがある。</p>	